

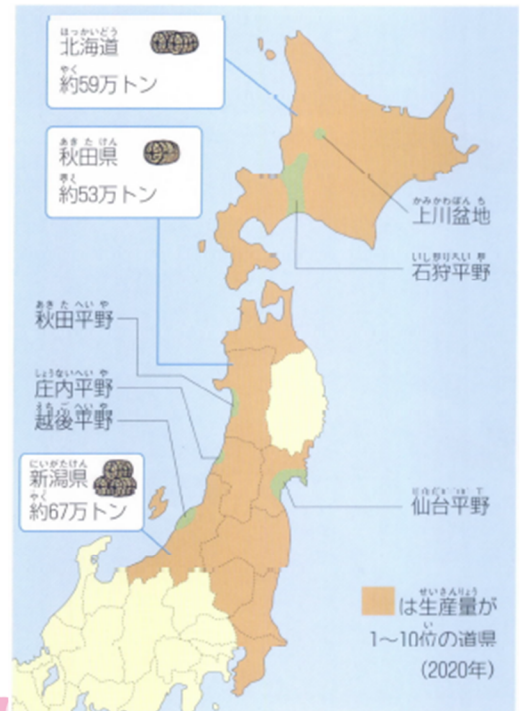
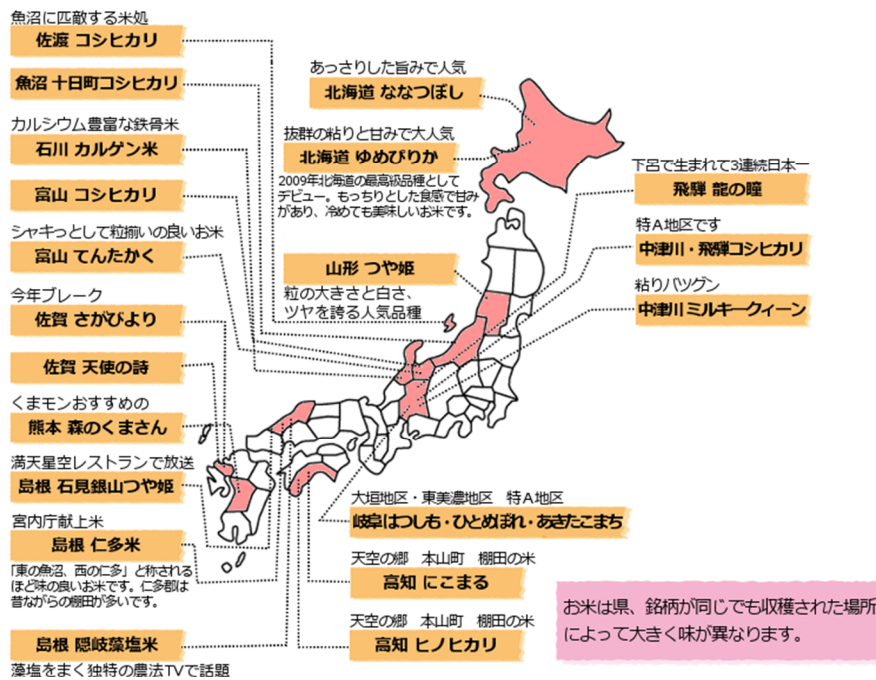
昔は、大勢の人たちで苗を数本ずつ手で田に植えていました。田植え機を使うようになって、機械を動かす人と苗を準備する人の2人一組で作業が行えるようになりました。新たに開発された自動運転田植え機を使えば、1人でも田植えの作業ができます。現在、農業で働く人は大きく減り、高齢化が進んでいるため、少ない労力で農作業を行う試みが進められているのです。



収穫前の水田の上を飛ぶドローン

また、ドローンで撮影した田の画像をコンピュータで調べると、実際に人が見て調べるよりも短い時間で育ち具合が細かく調べることができます。さらに、ドローンを使うと肥料を必要なところだけにまくこともできます。

米のふるさととは？



米の生産量が多い道県と米のおもな産地
広い平野や大きな川のあるところで、稲作がさかん
です。

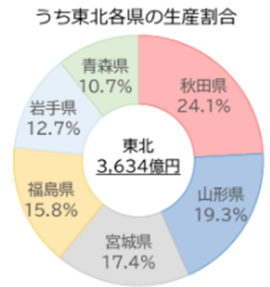
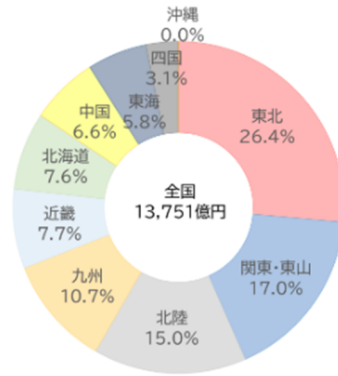
稲はもともと気温が高く雨が多いところの植物のため、高温で雨が多い日本の夏は米づくりに向いています。しかも、米は保存がきくために飢えで死ぬ心配が減ります。そのため、日本では縄文の昔から米づくりがさか
んに行われてきました。そして、(1…遺伝子の働きを利用して目的にあった品種をつくり出すこと)が行われ、北海道などの涼
しいところでも稲作ができるようにしてきました。

また、米にはコシヒカリやあきたこまちなどのたくさんの品種(種類)があります。コシヒカリはおもに(2)県、
あきたこまちは秋田県、ひとめぼれは宮城県などが、そのおもな産地として知られています。そのなかで最も多
く作られている品種が(3…全生産量の 1/3 以上)です。

米の生産の多いところは？

生産量の地方別では、東北と中部地方だけで全国の生産量のほとんどをしめています。下の米の生産の都道府県別について答えなさい。

2025/11/08 改訂
農業産出額から見る東北の米の生産割合（令和3年度）



資料：農林水産省「農業産出額及び生産農業所得統計（都道府県別）」

米の生産(t) 2023							
1	(4)	591,700	8.26%	---	---	---	---
2	北海道	540,200	7.54%	42	和歌山	29,200	0.41%
3	秋田	458,200	6.39%	43	山梨	25,700	0.36%
4	山形	359,300	5.01%	44	(6)	22,300	0.31%
5	宮城	344,700	4.81%	45	神奈川	14,200	0.20%
6	(5)	327,600	4.57%	46	(7)	1,830	0.03%
7	茨城	317,000	4.42%	47	東京	466	0.01%
--	---	---	---		全国	7,166,000	100.00%

さらに、米の産地^{さんち}で知られる川と平野名を答えなさい。



いしかりがわ きたかみがわ
石狩川 北上川
もがみがわ おものがわ しなのがわ
最上川 雄物川 信濃川

(8…川名)の河口の秋田県の(9…地図の⑤)平野、(10…川名)の河口の山形県の(11…地図の⑥)平野、
(12…川名)の河口の宮城県の(13…地図の④)平野、(14…川名)の河口の新潟県の(15…地図の⑦)平野、
(16…川名)の河口の北海道の(17…地図の②)平野や、この川の上流の(18…地図の③)盆地。

また、同じ耕地^{こうち}で一年に一種類の作物だけを栽培^{さいばい}することを(19…漢字で)といい、雪の多い北陸^{ほくりく}や東北地方が米の(19)地帯です。さらに、稲^{いね}などの同じ作物を1年に2回作ることを(20…今ではほとんど行われていなかったのが、
昨年の米不足と、温暖化により一部の地域で復活しています。))といい、稲をつくったあとの同じ田で麦^{むぎ}を作ることを(21)といひます。

また、わらや落ち葉などを積み上げてくさらせてつくる肥料や、家畜の糞や尿などをくさらせて自然の力でできた肥料を(22)といい、石油などから人工的につくったものは化学肥料といいます。化学肥料は効果が速く出ますが、使いすぎると地下水をよごし、土の中の微生物のはたらきをさまたげるため、けっきょくは作物の生育が悪くなります。こうしたことから、化学肥料や農薬を使わずに(22)による土づくりで作物をつくるのが広がっているのです。こうした栽培方法を(23…?栽培)といい、こうしてつくられた米が(24…?米)です。

米づくりの流れ

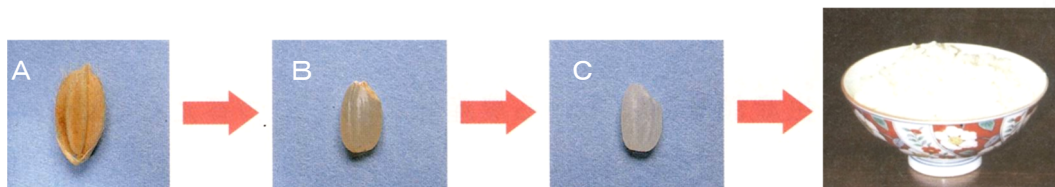
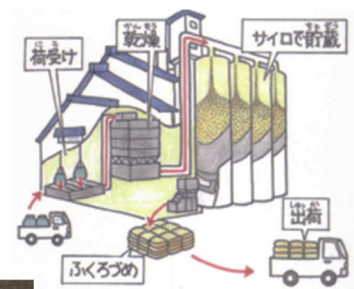
代かき 田植え 田起こし 中干し 草取り 乾燥 育苗 稲刈り
農薬散布 トラクター コンバイン 酸素 カントリーエレベーター

下は米づくりのようすです。語群からことばを選んで入れなさい。

(25…4～5月)  箱に種もみをまき、ビニールハウスの中で育てます。米作りがうまくいくかどうかはこの苗作りで決まると言われるほど重要な作業です。このことを苗半作といいます。	⇒	(26…4月)  (27…カタカナ)を使って田を耕します。	⇒	(28…5月)  田に水を入れ、土をくぐらして平らにします。肥料を全体にゆきわたらせ、苗の育ちをよくします。
(29…5月)  (29)機を使って苗を植えます。機械を使えない田のすみなどは手で植えます。	⇒	(草取り…6～8月)  雑草に栄養分をうばわれないようにこまめに草取りをします。	⇒	(30…7月)  田の水をぬき、一週間ほど土を乾かします。土に(31…気体名)を入れて根がよくのびるようにするためです。
(32…7～8月)  害虫や病気から稲を守るため、何回か(32)をします。また、肥料もあたえます。	⇒	(33…9～10月)  (34…カタカナ)という機械を使って、稲刈りと米の粒を稲穂から離す脱穀を一度に行います。	⇒	(乾燥…9～10月)  (35…カタカナ)という農業倉庫で米を乾燥させた後、低温で保存します。

収穫^{しゅうかく}した米は、(35)に運ばれます。運び込まれたもみは乾燥^{かんそう}されて、サイロというタンクの中で低い温度^{たも ほかん}に保たれて保管^{ほかん}されます。

そして、注文に応じてもみ殻^{がら}を取り除いた玄米^{げんまい}にして、各地へ出荷^{しゅつか}されます。



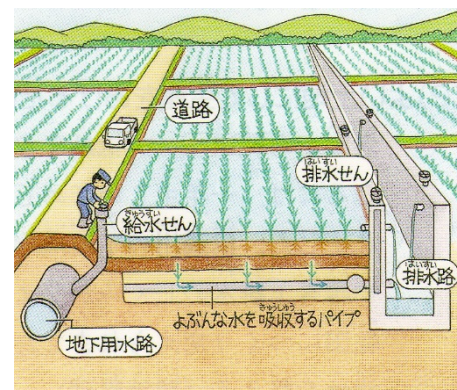
Aはもみ殻^{がら}がついたままの収穫^{しゅうかく}した米粒^{こめつぶ}で(36…ひらがな)といいます。1本の稲穂^{いなほ}から数10～100粒^{つぶ}ほどの米粒^{こめつぶ}がとれます。Bは(37…漢字2字)です。外側のもみ殻^{がら}を取ったもので、粒^{つぶ}のはしに芽^めとなって成長^{せいちょう}する胚芽^{はいが}がついています。Cがは私たちがふだん食べている白米^{はくまい}で、Bの(37)からぬかと胚芽^{はいが}を取りのぞいた(38…漢字3字)のことです。また、左はBを精白^{せいぱく}するときに出る皮^{かわ}の部分で、(39)といいます。



これに、塩をまぜてつくったぬかみそで漬^{つけ}け物をつくりま^すす。化粧品^{けしょうひん}やせっけんなどの原料^{げんりょう}にも使^{つか}われています。

効率^{こうりつ}のよい米づくりをめざして

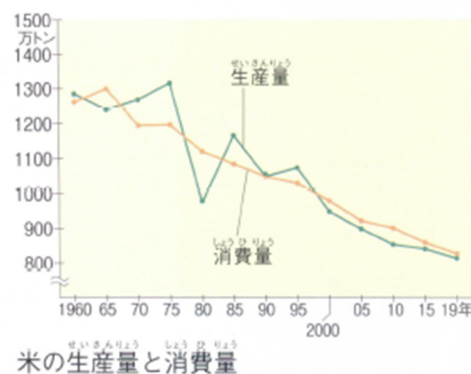
- ① 水田^{すいでん}の一区画^{ひとくかく}の面積^{めんせき}を大きくして、大型^{おおがた}の農業機械^{のうぎょうきかい}を使^{つか}えるようにしています。また、田に水を送るための用水路^{ようすいろ}が地下^{ち地下}にうめられている水田^{すいでん}もあります。地下^{ち地下}のパイプを使うと勢^{いきおい}がよく、しかも早く田に水を入れることができます。
- ② 作業^{てま}の手間^{てま}をはぶくため、田に直接^{ちよく}種^{くわね}をまく(40…?まき)という方法^{はうほう}も少しずつ広^{ひろ}まっています。
- ③ 稲作^{いなさく}には、水の管理^{かんり}が欠かせません。気温^{きおん}が低い時期^{しき}には、稲^{いね}を寒^ふさや風^{かぜ}から守^{まも}るために田の水^{みづ}を(41…多くか少なく)して水位^{すいゐ}を上げます。これを自動^{じどう}的に調^{てい}べて、水の出し入れ^{でしいれ}をするしくみも取り入れられています。



米の消費と生産

日本人の食生活^{しょくせいかつ}の変化^へにより、米が余^{あま}るようになりました。そのため、国^{くに}は稲^{いね}の作付^{さくつけ}面積^{めんせき}を減^へらす(42…漢字で)政策^{せいさく}を行^{おこな}い、生産^{せいさん}を調整^{ていせい}するようにしましたが、今は行^{おこな}われていません。反^{たん}とは、田^{たん}の面積^{めんせき}を表^{あらわ}す単位^{たんゐ}のことです。

また、海外^{かいがい}から安い米^{あひまい}が大量^{たいりょう}に輸入^{しゅへい}されてきて、これに対抗^{たいこう}するために、政府^{せいふ}は食糧^{しょくりょう}法^{ほう}を改正^{かいせい}して規制^{きせい}緩和^{かんわ}を進^{すす}め、だれでも自由^{じゆう}に米^{まい}を販売^{はんばい}できるようにしました。



さらに、日本は長い間、米を輸入する必要がなかったのですが、諸外国から圧力がかかり、1995年から最低輸入量にもとづいた米を輸入しなければならなくなりました。これを(43…カタカナ)といいます。

しかし、外国産の米は国内では人気がないため、お菓子に加工したり、外国への食料援助に使ったりしています。

2023年 輸入相手国のシェア(%)



①水田のはたらき

水田には米の生産のほかにも、さまざまなはたらきがあります。

1. 日本の水田にたくわえられる水は、全国のダムの貯水量の約3倍といわれています。このように水田は水をたくわえて洪水などを防いでくれているのです。

2. 水田は平らなので大雨が降っても、土砂が流れ出すことはありません。

水田は豊かな土地を守ってくれています。

3. 水田の水はゆっくり地下にしみこむため、地下水の量を安定させます。

そして、地下にしみこむ間に水がろ過されるため、きれいな水を作り出すはたらきもあります。

4. 水田にたまった水は少しずつ蒸発するため、夏に気温が上がるのをおさえてくれます。

5. どじょう・かえるなど、さまざまな生き物のすみかとなります。かえるは稲につく害虫を食べてくれます。



②見直される(44)

少しでも多くの米を生産するため、山の斜面に階段のようにつくられた水田のことで。しかし、農作業がたいへんなわりには収穫量が少ないため使われなくなりました。しかし、○山くずれを防ぐ、○美しい景色をつくり出す、などの長所が見直されて、この田を守る動きが広がり、都会の人々によさを知ってもらうため、田植えや稲刈りを体験できるようにしている地域が増えていきます。

